

テストの時間を短縮する「アダプティブテスト」を使ってみよう！

オーガナイザ： 秋山實 (東北大学大学院)

テストの測定精度を落とさずに実施時間を短縮することができる「コンピュータ適応型テスト (Computerized Adaptive Testing, CAT)」は、教育の質の向上させることができるツールである。しかし、今まで主流であった CAT は、項目応答理論に基づくものであり、大きなアイテムバンクが必要である。また、誰でも手に入るものではなく、まして一人の教師が利用できるようなものではなかった。

大学入試センターの荘島が提案した潜在ランク理論 (Latent Rank Theory, LRT) (注 1) は、項目応答理論よりも制約が少ないため、1 回分のテストをそのまま CAT にすることが可能なほどで、小規模なアイテムバンクでも適用できる。秋山は潜在ランク理論に基づくコンピュータ適応型テスト (Latent Rank Theory based CAT, LRT-CAT) を Moodle のプラグインとして開発し、公開している (注 2)。

本ワークショップでは、動作原理、使い方をデモンストレーションし、参加者は、ハンズオン形式のワークショップで実際に体験する。体験を希望する参加者は、Firefox、Chrome または、IE9 以降がインストールされたノートパソコンを持参する必要がある。過去に実施したテストの回答データを使い、次のステップを体験する。

- ① Moodle の小テストから回答データをエクスポートする
- ② エクスポートしたデータを EXAMETRIKA (注 3) で分析する
- ③ LRT-CAT にアップロードしてシミュレーションを行い、実行条件を決める
- ④ CAT テストを実施する

(注 1) Shojima, K. (2007) Neural test theory. DNC Research Note, 07-02.

(注 2) 秋山實. (2013) LRT-CAT. <http://moodle2x.info/>

(注 3) Shojima, K. (2008) Exametrika. <http://www.rd.dnc.ac.jp/~shojima/exmk/>

■ 開催日時：9月2日 (月) 9:00~11:50

■ 内容

- (1) 潜在ランク理論とは？ (20分)
- (2) アダプティブテストとは？ (20分)
- (3) 潜在ランク理論に基づくアダプティブテストのデモ (20分)
- (4) テストをアダプティブにしてみよう！ (ハンズオンワークショップ：110分)